東北医科薬科大学医学部医学科

年次報告書

2025(令和7)年度

東北医科薬科大学

TOHOKU MEDICAL AND PHARMACEUTICAL UNIVERSITY

医学教育分野別評価　東北医科薬科大学医学部医学科年次報告書
2025年度

医学教育分野別評価の受審 2023（令和5）年度
受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.34
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版Ver.2.36

はじめに 本学医学部医学科は、2023年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2024年6月1日より7年間の認定期間が開始した。医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36を踏まえ、2025年度の年次報告書を提出する。

なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2024年4月1日～2025年3月31日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版Ver.2.36の転記は省略した。

１．使命と学修成果	1.1 使命

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

使命として、「建学の精神」、「教育理念（３つの理念）」、「目的及び使命（学則第１条）」、「教育研究上の目的（学則第２条の２第１項）」、「医学部の使命」を定めている。

改善のための助言

建学の精神・教育理念・学則と、医学部の使命との関連性をわかりやすく整理し、大学等の関係者に示すべきである。

改善状況

新年度を迎えるにあたり、3 月下旬に教員を対象とした科目担当者・責任者説明会を開催し、建学の精神・教育理念・学則と、医学部の使命との関連性を医学部教務委員長から説明した（資料 1-1）。加えて、新年度を迎え 4 月に教職員全員を対象として実施した教育懇談会において、同様の内容を医学部長より説明し、医学部に関わる教職員に加え、全学の教職員への浸透を図る取り組みを行っている。

今後の計画

学生への一貫した教育と本学理念の達成のため、「建学の精神」、「教育理念（３つの理念）」、「目的及び使命（学則第１条）」、「教育研究上の目的（学則第２条の２第１項）」、「医学部の使命」に関して、大学関係者へ継続的に説明機会を設定し、正確な理解と浸透を図り、目的を達成すべく教職員が一丸となって実践できる環境を作る。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 1-1 科目担当者・責任者会議資料

１．使命と学修成果	1.1 使命

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

建学の精神・教育理念・学則との関連性を整理し、医学部の設置時に定めた「医学部の使命」に医学研究の達成や、国際的健康、医療の観点を包含することが望まれる。

改善状況

本学では建学の精神のもと、3 つの教育理念を掲げており、「国際的視点」に立って活躍できる人材育成をうたっている。その理念をうけ、医学部設置の主旨である「地域を支える総合診療医の育成と東日本大震災からの東北の復旧と復興」を目指し医学部の使命を掲げており、その関連性を明確にすることで国際的健康、医療の観点にも触れ、全人的医療の視点で教育課程を編成している。そのことは本学のカリキュラム・ポリシーにも明記されており、上記使命を果たすことを目指している（資料 1-1）。

今後の計画

医学部の使命と「医学研究の達成や国際的健康、医療の観点」をこれまで以上に関連付けて示すことができるよう、カリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシーの見直しを検討する。（資料 1-2）。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 1-1 科目担当者・責任者会議資料
- 資料 1-2 本学医学教育のロードマップ

１．使命と学修成果	1.3 学修成果

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

学修成果として、「卒業時に修得しておくべき学修成果（３つのアウトカム)」、「達成するために身につけるべき能力（８つのコンピテンシー)」を定めている。

改善のための助言

· 教員や学生の理解を促すために、学修成果をより具体化すべきである。
· 学修成果を十分に周知すべきである。

改善状況

令和 6 年度の入学生から、学修成果について経年的に達成状況を記録し、その経過を個々に保持する目的でディプロマ・ポリシーに則したルーブリック評価表（資料 1-3）を用いた振り返りを実施する。そのために、ルーブリックで評価する項目と内容を教務委員会において検討し、作成した。加えて、経年変化を学生および教員が把握できるよう、学内システムを構築し、レーダーチャートで確認できるよう整備した（資料 1-4)。

今後の計画

令和 7 年の新年度オリエンテーションから、前年度の学修成果について学生がルーブリックによる評価を実施し、学修成果の到達状況を内省する機会を設ける。令和 6 年度入学生から実施を始め、以降新年度オリエンテーションにて継続して行う。また、6 年次地域実習終了後、教員も参加する報告会を開催し、地域医療における様々な問題や実習で取得したことを報告する機会を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 1-3 ディプロマ・ポリシーに則したルーブリック評価表
- 資料 1-4 ディプロマ・ポリシー ルーブリック評価入力方法

１．使命と学修成果	1.3 学修成果

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

・医学研究に関する学修成果をより明確にすることが望まれる。
・国際保健に関する学修成果について検討することが望まれる。

改善状況

医学部 3 年次科目において、「課題研究」という科目を設け、学生は一定期間、各研究室に配属され、配属教室の教員による指導のもと研究を進める（資料 1-5）。研究総括として、発表会を実施し、更に学生はルーブリック評価により学修成果を明確にするとともに、振り返りを行っている。また、大学院医学研究科において、特別研究Ⅰ～Ⅳではルーブリック評価により学修成果を明確にするとともに、リトリート発表会（中間報告）を毎年実施し、進捗状況の把握と他者からのフィードバックを受けて今後に活かす機会を設けている（資料 1-6）。 なお、リトリート発表会は医学部生も自由に参加でき、かつ「課題研究」対象学生との連携ができるよう、課題研究発表会と同日開催にしている。

今後の計画

医学研究に関する学修成果について、学生のフィードバックも確認しながら、見直しが必要かどうかを随時検討する。また、国際保健に関する視点がまだまだ弱いため、その点に注目した学修成果についても検討する準備を始める。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 1-5 医学部シラバス（課題研究）
- 資料 1-6 第 2 回東北医科薬科大学リトリートポスター

-

１．使命と学修成果	1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための助言

使命と目標とする学修成果の策定・見直しを検討する会議等に、学生が委員として参画すべきである。

改善状況

医学部教務委員会の下部組織に教務委員会学生部会を設けており、教員 4 名（2 名はオブザーバー参加）と学生代表 15 名（各学年 2 名程度）で構成されている（資料 1-7）。
現状、年 2 回学生部会を開催し、カリキュラムや時間割、その他学生からの要望等、学生代表が各学年の意見を集約して持ち寄り、会議の場で議論を行っている（資料 1-8）。学生代表を通して、学生部会で議論された内容がどのように時間割やカリキュラム、学校生活に適用されたか、学生へフィードバックするとともに、継続課題は次回の学生部会で議論することとしている。

今後の計画

令和 7 年度から学生の意見をこれまで以上に、時間割やカリキュラム等に反映させることができるよう、試験的に医学部教務委員会へ学生代表に参加してもらう予定である。参加学生の負担等を考慮し、参加頻度については検討していく。また、参加学生についても、毎回同様の学生代表が参加するのではなく、交代制にするなど実施しながら並行して検討を行い、学内規定の整備も進める。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 1-7 教務委員会学生部会名簿　※ 部外秘
- 資料 1-8 2024 年度 学生部会議事録

１．使命と学修成果	1.4 使命と成果策定への参画

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

医学部設置時の使命の策定にあたって、東北各県の医療担当部局、医学部を有する大学、医師会、医療関係者、文部科学省、厚生労働省および復興庁関係者等の広い範囲の教育・医療の関係者が参画していることは評価できる。

改善のための示唆

使命と目標とする学修成果の策定・見直しには、患者代表などを含む広い範囲の教育の関係者からの意見を聴取することが望まれる。

改善状況

医学部教務委員会下部組織に教務委員会カリキュラム策定委員会、ならびにカリキュラム改善委員会を設けている。カリキュラム策定委員会には学外有識者として、医学部を有する大学の教授 2 名に参加いただいており、また、カリキュラム改善委員会には病院関係者 2 名に参加いただいており、他大学医学部の状況や病院関係者からの意見を参考にしながら、カリキュラムならびに学修成果の策定・見直しに役立てているものの、患者代表などを含む広い範囲の関係者から意見を聴取するには至っておらず、今後の課題である（資料 1-9）。

今後の計画

教務委員会において、地域実習ならびに臨床実習で連携しているネットワーク病院関係者や学外委員に意見を伺い、患者代表などを含む広い範囲の教育の関係者からの意見を聴取できる仕組みを検討する。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 1-9 教務委員会カリキュラム策定・改善委員会名簿

-

２．教育プログラム	2.1 教育プログラムの構成

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

生涯学習につながるカリキュラムをさらに体系的に構築することが望まれる。

改善状況

令和６年度に新カリキュラムでの運用が開始となり、１年次の「東北を学ぶⅠ～Ⅲ」では東北各県の現状を座学をとして学び、「科学ライティング演習」を通して身に付けた論理的思考力と記述力を活用して、発表会で理解を深め、２年次の「地域病院体験学習」「地域介護サービス体験学習」で実際に学んだ地域で実習を行っている。また、４年次の「基礎-臨床統合演習」「症候学」では、主な症候・病態の原因、分類、診断と治療の概要を統合して学び、患者情報（症候、身体所見、検査所見）から的確な診断および治療計画をグループ学習でロールプレイすることで体系的な学びを策定した（資料 2-1）。

今後の計画

上記内容に加え、本学独自の行動科学教育を策定することで学生にもわかりやすく体系的なカリキュラムを実践できるよう整備する。

改善状況を示す根拠資料

・資料 2-1 医学部シラバス（1 年次東北を学ぶⅠ～Ⅲならびに科学ライティング演習、2 年次地域実習、4 年次基礎-臨床統合演習ならびに症候学）

-

２．教育プログラム	2.2 科学的方法

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための助言

・医学研究の手法を学ぶ教育を充実させるべきである。
・EBM に関する体系的な準備教育と臨床実習現場での実践をさらに充実させるべきである。

改善状況

本学独自の行動科学教育を明確にし、行動科学を軸として科目間の有機的な連携を強化した教育を実践するため、教務委員会の下部組織である行動科学部会委員を中心に行動科学ＷＧを設置した。ＷＧでは本学独自の行動科学教育指針を策定するとともに、科目毎の学修成果を具体的に示すことで 6 年間一貫した体系的な教育基盤を策定し、教員説明会で意思統一を行い、実施に向けた準備を進めている（資料 2-2)。

今後の計画

本学独自の行動科学教育に関して、新年度オリエンテーションにおいて学生へ説明を行い、目的の正確な理解を進める。また、EBM 準備教育に関する情報収集を行い、EBM 準備教育の開始に備える。

改善状況を示す根拠資料

・資料 2-2 行動科学教育の骨子およびツリー

２．教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための助言

行動科学、医療倫理学について、複数の科目で行われている教育内容を補完・統合し、６年一貫の体系的なカリキュラムを構築して確実に実践すべきである。

改善状況

本学独自の行動科学教育を明確にし、行動科学を軸として科目間の有機的な連携を強化した教育を実践するため、教務委員会の下部組織である行動科学部会委員を中心に行動科学WGを設置した。WGでは本学独自の行動科学教育指針を策定するとともに、科目毎の学修成果を具体的に示すことで6年間一貫した体系的な教育基盤を策定し、教員説明会で意思統一を行い実施に向けた準備を進めている（資料2-2)。また、新年度オリエンテーションにおいて、各学年（新入生含む）を対象に行動科学ツリーとルーブリック評価に関する説明を行った。

今後の計画

新年度オリエンテーションでの説明に加え、一部の対象学年では2024年度の振り返りをルーブリック評価にて実施した。今後はアンケート結果や学生コメント（1～6学年）のデータ収集を行い、分析する。また、3年次科目の「課題研究」において、臨床系教室での実施に加え、社会系科目教室の募集を開始する。

改善状況を示す根拠資料

・資料2-2 行動科学教育の骨子およびツリー

２．教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学に関して、現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを、カリキュラムに一層反映させることが望まれる。

改善状況

本学独自の行動科学教育を明確にし、行動科学を軸として科目間の有機的な連携を強化した教育を実践するため、教務委員会の下部組織である行動科学部会委員を中心に行動科学WGを設置した。WGでは本学独自の行動科学教育指針を策定するとともに、科目毎の学修成果を具体的に示すことで6年間一貫した体系的な教育基盤を策定し、教員説明会で意思統一を行い実施に向けた準備を進めている（資料2-2)。また、新年度オリエンテーションにおいて、各学年（新入生含む）を対象に行動科学ツリーとルーブリック評価に関する説明を行った。

今後の計画

新年度オリエンテーションでの説明に加え、一部の対象学年では2024年度の振り返りをルーブリック評価にて実施した。今後はアンケート結果や学生コメント（1～6学年）のデータ収集を行い分析する。また、3年次科目の「課題研究」において、臨床系教室での実施に加え、社会系科目教室の募集を開始する。

改善状況を示す根拠資料

・資料2-2 行動科学教育の骨子およびツリー

２．教育プログラム	2.5 臨床医学と技能

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

全学生が低学年から高学年まで同一地域に繰り返し滞在して行う実習など、地域医療を重視した特色あるカリキュラムを定めて実践していることは高く評価できる。

改善のための助言

すべての主要な診療科において、臨床実習期間を十分に確保し、診療参加型臨床実習を充実すべきである。

改善状況

2024 年度のカリキュラム改訂において、現行のカリキュラムを大幅に見直し、医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和４年度改訂版）に準拠した内容にするとともに「未来を見通したカリキュラムで地域医療を守る医師を育成」をテーマとして、本学の特色あるカリキュラムを策定した（資料 2-3）。臨床実習においては、これまで以上に実践的な知識と技能を獲得するため、現行の「地域診療総合実習」「地域包括医療実習」を「地域・総括医療実習」に再編することで内容の充実を図るよう構成し、従来のカリキュラムに比べて実習期間を 2 週増やすこととした。

今後の計画

4 年次後期～5 年次にかけて実施する診療科臨床実習において、各診療科のローテーションを見直し、主要な診療科での実習期間を十分確保するよう構成する。その際、選択科での実習期間についても見直しを行う。

改善状況を示す根拠資料

・資料 2-3 カリキュラム改訂の概要

２．教育プログラム	2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

「基礎-臨床統合演習」では、基礎医学と臨床医学の連携が行われている。

改善のための助言

関連科目の水平的統合ならびに垂直的統合教育をさらに進めることが望まれる。

改善状況

基礎医学を基に診断や治療の基本を学び、身体診察に必要な技能を認識させるため、各学年の教学担当教員制度を導入予定である。教学担当教員は主に、各学年における科目間成績の強弱を分析するとともに、科目間の連携を図り水平的統合を進める役割を担う予定で検討を開始した（資料 1-2）。4 年次の「基礎-臨床統合演習」「症候学」では、主な症候・病態の原因、分類、診断と治療の概要を統合して学び、患者情報（症候、身体所見、検査所見）から的確な診断および治療計画をグループ学習でロールプレイすることで体系的な学びを策定した（資料 2-1）。

今後の計画

上記内容に加え、本学独自の行動科学教育を策定することで、水平的統合ならびに垂直的統合を体系的に実践できるよう整備するとともに、視覚的にもわかりやすく学生に周知する。また、基礎と臨床をつなぐ目的から「病態学演習Ⅰ・Ⅱ」を 2 年後期と 3 年前期に新設する。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 1-2 本学医学教育のロードマップ
- 資料 2-1 医学部シラバス（1 年次東北を学ぶⅠ～Ⅲならびに科学ライティング演習、2 年次地域実習、4 年次基礎-臨床統合演習ならびに症候学）

２．教育プログラム	2.7 教育プログラム管理

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための助言

教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会に、学生の代表を含むべきである。

改善状況

医学部教務委員会の下部組織に教務委員会学生部会を設けており、教員 4 名（2 名はオブザーバー参加）と学生代表 15 名（各学年 2 名程度）で構成されている（資料 1-7）。
現状、年 2 回学生部会を開催し、カリキュラムや時間割、その他学生からの要望等、学生代表が各学年の意見を集約して持ち寄り、会議の場で議論を行っている（資料 1-8）。学生代表を通して、学生部会で議論された内容がどのように時間割やカリキュラム、学校生活に適用されたか、学生へフィードバックするとともに、継続課題は次回の学生部会で議論することとしている。

今後の計画

令和 7 年度から学生の意見をこれまで以上に、時間割やカリキュラム等に反映させることができるよう、試験的に医学部教務委員会へ学生代表に参加してもらう予定である。参加学生の負担等を考慮し、参加頻度については検討していく。また、参加学生についても、毎回同様の学生代表が参加するのではなく、交代制にするなど実施しながら並行して検討を行い、学内規定の整備も進める。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 1-7 教務委員会学生部会名簿
- 資料 1-8 2024 年度 学生部会議事録

２．教育プログラム	2.7 教育プログラム管理

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会に、教員と学生以外の広い範囲の教育の関係者の代表をさらに含むことが望まれる。

改善状況

医学部教務委員会下部組織に教務委員会カリキュラム策定委員会、ならびにカリキュラム改善委員会を設けている。カリキュラム策定員会には学外有識者として、医学部を有する大学の教授 2 名に参加いただいており、また、カリキュラム改善委員会には病院関係者 2 名に参加いただいており、他大学医学部の状況や病院関係者からの意見を参考にしながら、カリキュラムならびに学修成果の策定・見直しに役立てている（資料 1-9）。

今後の計画

教務委員会において、学外委員の方からのご意見を頂きながら、さらに教育関係者を学外委員として参加いただくかを検討する。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 1-9 教務委員会カリキュラム策定・改善委員会名簿

２．教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
基本的水準：適合	
特記すべき良い点（特色）	
「地域医療ネットワーク協議会」などを通して、卒前・卒後の教育の連携が行われている。	
改善のための助言	
卒前と卒後のシームレスな医学教育をさらに推進すべきである。	
改善状況	
2024 年 12 月 13 日に開催された「第 6 回地域医療ネットワーク協議会」において、出席されたネットワーク病院の参加者に対し、本学の地域実習に対する認証評価結果を共有し、今後の対応を示すとともに、協力いただきたい点を依頼し連携強化につなげている（資料 2-4）。加えて、参加された各病院の担当者からは、今後の実習ならびに卒後の初期研修や専攻医採用について多くの意見が出され、本学の地域実習責任者を中心に議論を開始した（資料 2-5）。	
今後の計画	
地域医療ネットワーク協議会での意見を踏まえ、教務委員会とキャリア支援課ならびに卒業生交流支援センターが連携して卒前・卒後の教育体制を整備するよう検討を進める。	
改善状況を示す根拠資料	
・ 資料 2-4 第 6 回地域医療ネットワーク協議会資料 ・ 資料 2-5 第 6 回地域医療ネットワーク協議会議事録	

-

３．学生の評価	3.1 評価方法

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・各科目について、意図した学修成果に応じて評価方法やその比率が開示されている。
・６年次の統括試験の問題について、ブラッシュアップ委員会が見直しや修正を行っている。

改善のための助言

・臨床実習を含む各学年のカリキュラムにおいて、技能・態度の評価を確実に実施すべきである。
・各科目の試験において、利益相反の規定を定めるべきである。
・各科目の評価について、外部の専門家によって吟味されるべきである。
・試験の合否を含めて、評価結果に対する疑義申し立て制度を策定し、運用すべきである。

改善状況

アクティブ・ラーニング等の形成的評価を通して、学生が積極的に学習する姿勢を涵養するため、シラバスの記載項目に『アクティブ・ラーニング』の実施項目を設けるとともに、実施方法や事例紹介など授業におけるアクティブ・ラーニング推奨を目的としたFDを実施した（資料3-1、資料3-2）。また、試験結果に対する成績評価確認制度を設け、成績評価に対する申立てができるよう整備し、運用を開始した（資料3-3）。加えて、成績評価についてのガイドライン策定に向け、ワーキンググループを設置し検討を開始した（資料1-2、資料3-4）。

今後の計画

2025年度に成績評価ガイドライン（案）を作成し、定期試験平均点の平準化や評価方法の妥当性を担保できるよう整備する。また、講義実施や試験内容、成績評価など教員向けFDの充実を図り、上記内容を補完する取り組みを進める。利益相反に関する規定は、関係各署と調整を開始する。

改善状況を示す根拠資料

・資料1-2 本学医学教育のロードマップ
・資料3-1 2025年度医学部シラバス
・資料3-2 2024年度 アクティブ・ラーニングFD（次第）
・資料3-3 成績評価確認制度
・資料3-4 第1回「評価の妥当性」WG議事録

３．学生の評価	3.1 評価方法

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

・評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示することが望まれる。
・臨床実習において、ポートフォリオ評価や MiniCEX などの臨床現場における評価を導入することが望まれる。

改善状況

評価の妥当性（利益相反含む）についてのワーキンググループを設置し、本学における医学教育において正当な評価が行われるよう議論を行っている（資料 1-2）。現状、正当な評価が実施されていないと考えられる科目があり、是正するためにガイドラインの整備が必要と議論された（資料 3-4）。

今後の計画

2025 年度に成績評価ガイドライン（案）を作成し、定期試験平均点の平準化や評価方法の妥当性を担保できるよう整備する。また、臨床実習ではポートフォリオを使用しているものの、活用されている例が少ないため、見直しを図るとともに、MiniCEX や CC-EPOC などの導入についても検討する。

改善状況を示す根拠資料

・資料 1-2 本学医学教育のロードマップ
・資料 3-4 第 1 回「評価の妥当性」WG 議事録

３．学生の評価	3.2 評価と学修との関連

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための助言

・学年の進行に合わせて目標とする学修成果をそれぞれ具体的に示し、目標とする学修成果とそれに整合した評価方法で達成度を評価すべきである。
・形成的評価と総括的評価の適切な比重により、学生の学修と教育進度の判定の指針となる評価を行うべきである。

改善状況

シラバスに各科目のねらいや学修目標、成績評価方法を明記するとともに、2025年度のシラバスを作成するにあたって、他科目の成績評価方法を全教員と共有し、自身の科目についても見直しが必要か確認しながら進めた（資料 3-1、資料 3-5）。また、令和 6 年度の入学生から、学修成果について経年的に達成状況を記録し、その経過を個々に保持する目的でディプロマ・ポリシーに則したルーブリック評価表（資料 1-3）を用いた振り返りを実施するとともに、行動科学ルーブリックを用いて、2 年次修了時点（臨床入門）、4 年次後期（臨床実習前）、卒業時におけるマイルストーンに基づいた振り返りを導入した（資料 3-6）。

今後の計画

2025 年度に成績評価ガイドライン（案）を作成し、定期試験平均点の平準化や評価方法の妥当性を担保できるよう整備するとともに、形成的評価と総括的評価の評価方法や内容について、ワーキンググループで検討を進め、FD を開催して教員間のコンセンサスを図る。

改善状況を示す根拠資料

・資料 1-3 ディプロマ・ポリシーに則したルーブリック評価表
・資料 3-1 医学部シラバス
・資料 3-5 2024 年度 成績評価方法一覧
・資料 3-6 行動科学ルーブリック評価表

３．学生の評価	3.2 評価と学修との関連

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

・すべての科目について、形成的評価を活用することにより、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うことが望まれる。

改善状況

2024 年 8 月に科目責任者へアクティブ・ラーニング実施状況調査を行い、現状把握を行った。また、実施調査結果をもとに、実施方法や事例紹介など授業におけるアクティブ・ラーニング推奨を目的とした FD を実施し（資料 3-2）、シラバスにも記載欄を設けて促進している（資料 3-1）。加えて、令和 6 年度からディプロマ・ポリシーに則したルーブリック評価表と行動科学ルーブリック評価表を用いて、学生の振り返りに対するフィードバックができるよう整備を進めた（資料 1-3、資料 3-6）。

今後の計画

アクティブ・ラーニングや ICT 活用事例を収集し、FD 等で共有することで形成的評価の科目への導入を促進し、データ収集を行う。結果は IR と連携のうえ、解析を進め各学年の教学担当教員と共有する。

改善状況を示す根拠資料

・資料 1-3 ディプロマ・ポリシーに則したルーブリック評価表
・資料 3-1 2025 年度医学部シラバス
・資料 3-2 2024 年度 アクティブ・ラーニング FD（次第）
・資料 3-6 行動科学ルーブリック評価表

-

４．学生	4.1 入学方針と入学選抜

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

・受験生に向けて、選抜と卒業時に期待される能力との関連を明示することが望まれる。
・入学決定に対する疑義申し立てについて制度化し、周知することが望まれる。

改善状況

本学ホームページ医学科のサイトに 3 つのポリシーと教育目標を記載し、受験者に分かりやすく示した（資料 4-1）。また、年 3 回開催されたオープンキャンパスでは、医学部長から医学部の特長と共に 3 つのポリシーに関する説明を行い、加えて入試センター長から選抜方法等の説明を行っている（資料 4-2）。
入学者選抜に係る疑義申立てについては、制度化してホームページに公開し対応している（資料 4-3）。

今後の計画

入試センター委員会において、アドミッション・ポリシーが妥当かどうかの検証を行い、修正する場合は適切に外部周知を行う。

改善状況を示す根拠資料

・資料 4-1 医学科｜医学部｜東北医科薬科大学 HP 抜粋
・資料 4-2 オープンキャンパスリーフレット

４．学生	4.4 学生の参加

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための助言

使命の策定、教育プログラムの策定・管理・評価、学生に関する諸事項を審議する委員会に学生の参加が十分ではなく、各委員会の規定を整備し、学生が正式な委員として出席し、適切に議論に参加すべきである。

改善状況

医学部教務委員会の下部組織に教務委員会学生部会を設けており、教員 4 名（2 名はオブザーバー参加）と学生代表 15 名（各学年 2 名程度）で構成されている（資料 1-7）。
現状、年 2 回学生部会を開催し、カリキュラムや時間割、その他学生からの要望等、学生代表が各学年の意見を集約して持ち寄り、会議の場で議論を行っている（資料 1-8）。学生代表を通して、学生部会で議論された内容がどのように時間割やカリキュラム、学校生活に適用されたか、学生へフィードバックするとともに、継続課題は次回の学生部会で議論することとしている。

今後の計画

令和 7 年度から学生の意見をこれまで以上に、時間割やカリキュラム等に反映させることができるよう、試験的に医学部教務委員会へ学生代表に参加してもらう予定である。参加学生の負担等を考慮し、参加頻度については検討していく。同時に教務委員会規定の整備も行う。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 1-7 教務委員会学生部会名簿
- 資料 1-8 2024 年度 学生部会議事録

５．教員	5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

教員が教育・研究等の業績を教員評価委員会に定期的に報告している。

改善のための助言

・教員評価委員会が収集した教育、研究、診療のバランスに関する情報および学術的業績を組織的に分析し、教員の活動と能力開発に活用すべきである。
・カリキュラム全体の理解を含め、すべての教員の教育能力を向上させるため、FDに関する方針を策定して計画的に履行すべきである。

改善状況

教員が毎年提出する業績自己申告書に記載された教育・研究・診療に関する実績をIR委員会において組織的に分析し、教員の活動状況の実態を把握する。医学部FD部会において、令和7年度の活動計画を策定しFD活動を進めている。具体的に年間を通じて教員がいつでも視聴できるよう「新カリキュラムに関して」、「授業の進め方」、「評価の仕方」などの動画コンテンツを用意した。また、目的に合わせたFD講演会の実施（医薬合同含む）についても予定している（資料5-1）。

今後の計画

カリキュラム全体の理解を含め、すべての教員の教育能力を向上させるため、中長期的なFD講演会の実施計画を教務委員会にて計画する。

改善状況を示す根拠資料

・ 資料5-1 2025年度 医学部FD部会活動計画

６．教育資源	6.2 臨床実習の資源

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

関連教育病院、「地域医療教育サテライトセンター」や東北６県にある「地域医療ネットワーク病院」を指定学外臨床実習施設として、地域医療、在宅医療、介護、医療行政、健康増進、予防医学を学べる環境が整備されている。

改善のための助言

・学生が適切な臨床経験を積めるように、各学生が担当した患者数と症候・疾患分類を把握して臨床実習施設を整備すべきである。
・教育方法や評価方法について十分な能力開発を行って、学内外の臨床実習指導医を充実すべきである。

改善状況

学内教員に対し、診療科臨床実習に関する説明会を実施し、実習の概要や実習評価方法等に関する意思統一を行っている（資料 6-1)。同時に『臨床実習における学生指導の事例紹介』(Good Practice：優れた実践）を行い、内容の改善や更なる向上を目指した FD を実施し、学生から実習評価の高かった診療科から実習内容や取り組みを紹介する機会を設けた。また、学外実習においてはネットワーク病院指導医のための FD を実施し、実習内容ならびに評価方法等に関する意思統一を実施している（資料 6-2、資料 6-3)。

今後の計画

臨床実習については、今後も学内教員ならびに学外指導医のための FD を実施し、継続的な意思統一ならびに能力開発の機会を設ける。

改善状況を示す根拠資料

・資料 6-1 2024_診療科臨床実習に関する説明会および FD_次第
・資料 6-2 ネットワーク病院指導医のための FD 講習会
・資料 6-3 地域臨床実習 外部病院 FD

６．教育資源	6.3 情報通信技術
基本的水準：適合	
特記すべき良い点（特色）	
なし	
改善のための助言	
学生が利用するインターネット環境をさらに改善すべきである。	
改善状況	
本学附属病院において、実習中の学生が利用するネットワーク環境の整備について、本格的に検討を開始した。また、学内における Wi-fi 環境や電子カルテを閲覧できる環境についても検討を開始した。	
今後の計画	
上記計画を具体的に実行できるよう、中長期的な計画立案と環境整備のための予算化を行う。	
改善状況を示す根拠資料	

６．教育資源	6.4 医学研究と学識

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための助言

医学研究の活動や成果をカリキュラムの作成にさらに反映させるべきである。

改善状況

医学部 3 年次の「課題研究」において、学生は一定期間各研究室に配属され、配属教室の教員による指導のもと研究を進める（資料 1-5）。また、大学院医学研究科において、リトリート発表会（中間報告）を実施し、2024 年度からは医学部生も自由に参加できるようにした（資料 1-6）。リトリート発表会後には医学部学生と大学院生、教員が意見交換できる場を設け、情報収集を行った。

今後の計画

課題研究内容のブラッシュアップや他科目との連携等、上記取り組みをカリキュラムへどのように反映するか、課題研究科目担当者を中心に検討を進める。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 1-5 医学部シラバス（課題研究）
- 資料 1-6 第 2 回東北医科薬科大学リトリートポスター

６．教育資源	6.4 医学研究と学識

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

研究マインドの涵養を促進するために、学生が医学の研究開発に直接関与できる環境とカリキュラムをさらに充実させることが望まれる。

改善状況

本学では学生が医学研究に直接関与できるよう、「課題研究」（3 年次必修科目）を設けている（資料 1-5）。また、学生が「課題研究」配属教室において継続して研究活動を行うことが認め、医学部教育研究棟への出入り、電子カルテの閲覧権限等を申請により許可している（資料 6-4）。

今後の計画

課題研究の実施時期や配属教室を見直し、学生がこれまで以上に研究活動に取り組める環境設定を行う。

改善状況を示す根拠資料

・資料 6-4 第 99 回医学部教授会資料

６．教育資源	6.5 教育専門家

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

・医学教育に関する研究をさらに発展させ、国内外に発信することが期待される。
・学内外の教育専門家が参加するFDなどを開催し、教員や指導医の教育能力向上に活用することが望まれる。

改善状況

本学に教育専門家を招いたFD講演会を開催している。直近では、令和6年2月に昭和大学医学教育推進室室長の泉美貴教授による「昭和大学医学部における学習者本位の教育」と日本医学教育評価機構常勤理事の奈良信雄先生による「医学教育評価を踏まえた医学教育改革の方向性」を開催し、令和6年11月には埼玉医科大学副学長の椎橋美智男教授による「『行動科学』教育に関するFD講演会」を開催した（資料6-5～6-7）。また、当日参加できなかった教員向けにオンデマンドでの視聴ができるよう整備した。

今後の計画

外部講師によるFD講演会を計画的に開催する。

改善状況を示す根拠資料

・資料6-5 令和6年度 医学部授業説明会およびFD次第（泉講師）
・資料6-6 「医学教育評価を踏まえた医学教育改革の方向性」FD次第（奈良講師）
・資料6-7 令和6年度 「行動科学」教育に関するFD講演会次第（椎橋講師）

６．教育資源	6.6 教育の交流

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための助言

教職員や学生の人的交流などを視野に入れ、国内外の他教育機関との協力を推進すべきである。

改善状況

令和６年５月に公立大学法人宮城大学と IR 機能の強化に向けた連携に関する打合せを実施し、今後連携しながら FD 研修や人的交流等を行うこととなった。また、令和６年 12 月には学校法人東北学院と本法人とが協力し、両法人の一層の連携・発展及び人材育成を通じた地域社会への貢献に資することを目的とした教育・研究及び学生・教職員交流等に関する包括連携協定を締結した（資料 6-8）。

今後の計画

学内の関連部署と具体的な連携内容について検討し、医学部における実践を進めるため両大学との協議を行う。また、新たな連携機関に関しても検討を進める。

改善状況を示す根拠資料

・資料 6-8 東北学院大学との包括連携協定

６．教育資源	6.6 教育の交流

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

国際交流をさらに発展させ、教職員や学生の国際的な視野を培うことが望まれる。

改善状況

令和 6 年 11 月に台湾の加南薬理大学から副学長他 14 名が来学し、地域医療についての情報交換および大学病院施設訪問を行った。また、9 月に台湾の台北医学大学より理事長および学長他 4 名が医学部福室キャンパスを訪問され、今後の交流内容について意見交換が行われ、令和 7 年 2 月に本学より学長および本学教員が台北医学大学を訪問し、キャンパス見学と意見交換を行った（資料 6-9）。

今後の計画

海外の研究施設や研究者と交流を行っている研究者を調査し、海外の研究施設との協定締結に向けて検討を行う。

改善状況を示す根拠資料

・資料 6-9 令和 7 年度 第 1 回国際交流委員会

７．教育プログラム評価	7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・教学 IR 委員会が、入学選抜や試験成績などの情報を体系的に収集して詳細な分析を行っている。
・教学 IR のデータを用いて、成績不良者の早期発見に関する解析を行い、カリキュラムの改善につなげている。

改善のための助言

・学修成果の達成度を系統的にモニタするためのデータを定期的に収集し、分析に用いるべきである。
・カリキュラムを俯瞰的に評価する体制の充実を図るべきである。
・教育プログラム評価を行う組織と、カリキュラムの立案と実施を行う組織との独立性をより明確にし、客観的な評価に基づいて教育カリキュラム改善につなげるべきである。

改善状況

本学のディプロマ・ポリシーに基づき、医学部の教育課程を通じて学生に修得を期待する 10 の能力を明文化し、それらの到達度を自己評価させるためのルーブリック評価表を作成している（資料 1-3）。今後は、各学年で年 1 回の自己評価を実施する予定である。教務委員会の下部組織であるカリキュラム関連委員会（P:策定、D:実施、C:評価、A:改善）のうち、カリキュラム評価委員会の機能を医学部自己点検・評価委員会に移管し、客観的な評価ができる体制を整備する方向で検討している。

今後の計画

医学部自己点検・評価委員会でカリキュラム評価をした内容に基づき、カリキュラム改善員会が議論を行い、PDCA サイクルをもとにした運営を行う。

改善状況を示す根拠資料

・ 資料 1-3 ディプロマ・ポリシーに則したルーブリック評価表

７．教育プログラム評価	7.1 教育プログラムのモニタと評価

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

東北６県の「地域医療ネットワーク病院」からの情報を得て、地域医療教育プログラムの評価と改善に関する検討を行っている。

改善のための示唆

教育活動とそれが置かれた状況、カリキュラムの特定の構成要素、長期間で獲得される学修成果について、定期的・包括的に教育プログラムを評価する仕組みを充実させることが望まれる。

改善状況

教学 IR 委員会において、定期的かつ包括的に教育プログラムの分析が実施されており、その結果は関連する各委員会で評価されている。具体的には、在学生の進級状況や原級・退学者の発生状況、各科目における成績評価分布、学生生活調査における教育満足度などについて継続的に分析が行われ、その結果は毎年、カリキュラム評価委員会およびカリキュラム改善委員会に報告されている。さらに教学 IR 委員会では、教学改善に向けた一連のプロセスを可視化するため、2024 年度にフローチャートの作成を行った（資料 7-1）。これにより、教務委員会からの分析依頼を受けてから、分析結果をフィードバックし、教学改善に活用されるまでの流れを明確化する。また年度初めには教学 IR の具体的な活動計画を策定し、評価の基本方針について組織的に確認している（資料 7-2）。

今後の計画

2024 年度から導入された新カリキュラムが教学改善にもたらす効果について、組織的に評価を行う。また IR データを活用した教学改善の具体的な事例を蓄積し、その情報を外部にも公開する。

改善状況を示す根拠資料

・資料 7-1 教学改善の情報公開までのフローチャート
・資料 7-2 教学 IR 委員会（R7 活動計画）

７．教育プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための助言

・教員から、カリキュラム全般にわたる意見を定期的に収集し、体系的に分析し対応すべきである。
・教員が作成する改善等報告書の内容およびカリキュラムへの反映状況について、組織的に把握して分析すべきである。

改善状況

本学医学部のカリキュラムおよび学修指導方法の改善を目的として、教員の意見を広く収集するために「教員を対象としたカリキュラムと学習指導に関するアンケート」を年度末にかけて実施し、IR にて集計結果を分析した内容をカリキュラム評価委員会で議論のうえ、改善委員会にて対応を検討している（資料 7-3）。また、学生による授業アンケートの評価結果を教員にフィードバックし、その内容に基づいて「授業の振り返りと改善等報告書」を各教員が作成、授業改善へ向けた各教員の取り組み状況を把握したうえで、記載内容を精査した（資料 7-4）。

今後の計画

IR ならびにカリキュラム評価委員会にて議論された内容をもとに、カリキュラム改善委員会で検討された内容をカリキュラムや時間割に反映させ、PDCA サイクルを運用し、実施状況を改めて組織的に分析するといった流れを構築する。

改善状況を示す根拠資料

・資料 7-3 2024 年度教学 IR 報告書（医学部）
・資料 7-4 2023 年度授業振り返り報告書のまとめ

７．教育プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

卒業生アンケート等の分析結果のフィードバックを踏まえ、論述力を強化するためのカリキュラムの改善について検討している。

改善のための助言

教員と学生からのフィードバックの結果を利用して、教育プログラムを開発することが望まれる。

改善状況

教員ならびに学生それぞれに対し、本学のカリキュラムに対するアンケートを実施している。また、回収したアンケートはIR委員会やカリキュラム評価委員会にて分析し、カリキュラム改善委員会にて改善案を議論している（資料7-4、7-5）。

今後の計画

今後、教員と学生からのアンケート結果をもとにした改善案に則し、教務委員会を中心に新たな教育プログラムの開発について、検討を開始する。

改善状況を示す根拠資料

・資料7-4 2023年度授業振り返り報告書のまとめ
・資料7-5 第2回カリキュラム評価・改善委員会_議事録

７．教育プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための助言

使命と意図した学修成果、カリキュラム、資源の提供に関する卒業生の実績を、系統的・計画的に収集し分析すべきである。

改善状況

これまで、本学卒業生と卒業生の就職先病院に対し、7 月頃アンケートを実施し分析している（資料 7-6、資料 7-7）。また、分析した内容をもとに卒業生交流支援センター運営会議で共有し、アンケート内容について精査・検討している。

今後の計画

卒業生からのアンケート回収率が低いため、どのように回収率を上げるか検討を進める。また、アンケート内容についても、追加・微修正の要否を検討している。

改善状況を示す根拠資料

・資料 7-6 卒業生アンケートまとめ
・資料 7-7 医学部卒業生の就職先病院に対するアンケートまとめ

７．教育プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

毎年、学生生活調査を実施し、教学 IR における分析に活用している。

改善のための示唆

・背景と状況に関して学生と卒業生の実績を分析することが望まれる。
・卒業生の実績に関するデータを系統的・計画的に収集して、分析することが望まれる。
・学生の実績の分析に基づいて、カリキュラム立案や学生カウンセリングに責任のある委員会にフィードバックすることが望まれる。

改善状況

本学教学 IR において、1～4 年次の成績推移と 6 年次成績、入試成績との関連性の分析を実施し、カリキュラム改善委員会や教務委員会にて報告している（資料 7-5）。また、入学者選抜の内容に関する分析結果は入試センターにフィードバックし、入試内容の検討に活用している。

今後の計画

今後の入学者選抜における実施科目や配点の見直しを検討するとともに、学生委員会の学生支援部門と連携して、入学者のサポート体制強化につなげる。

改善状況を示す根拠資料

・資料 7-5 第 2 回カリキュラム評価・改善委員会_議事録

７．教育プログラム評価	7.4 教育の関係者の関与

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための助言

教育プログラムのモニタと評価に、学生を含む教育に関わる主要な構成者が参画すべきである。

改善状況

医学部教務委員会の下部組織に教務委員会学生部会を設けており、教員 4 名（2 名はオブザーバー参加）と学生代表 15 名（各学年 2 名程度）で構成されている（資料 1-7）。
現状、年 2 回学生部会を開催し、カリキュラムや時間割、その他学生からの要望等、学生代表が各学年の意見を集約して持ち寄り、会議の場で議論を行っている（資料 1-8）。学生代表を通して、学生部会で議論された内容がどのように時間割やカリキュラム、学校生活に適用されたか、学生へフィードバックするとともに、継続課題は次回の学生部会で議論することとしている。

今後の計画

令和 7 年度から学生の意見をこれまで以上に、時間割やカリキュラム等に反映させることができるよう、試験的に医学部教務委員会へ学生代表に参加してもらう予定である。参加学生の負担等を考慮し、参加頻度については検討していく。また、参加学生についても、毎回同様の学生代表が参加するのではなく、交代制にするなど実施しながら並行して検討を行う。

改善状況を示す根拠資料

- 資料 1-7 教務委員会学生部会名簿
- 資料 1-8 2024 年度 学生部会議事録

８．統轄および管理運営	8.1 統轄

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための助言

教務委員会、学生委員会だけでなく、教学に関わる小委員会においても規定を定めるべきである。

改善状況

本学における医学部教務委員会の下部組織として、多くの小委員会があり、教務委員会内規（資料 8-1）を設けて運営している。今後、各小委員会における規定を定めるうえで、既存の小委員会が必要かどうか見直しを行っている。

今後の計画

教務委員会にある小委員会のうち、カリキュラム評価委員会は独立性を担保するため、教務委員会外の組織に設置したうえで運用できるよう検討する。また、既存の小委員会については規定を設けた運用を視野に検討する。

改善状況を示す根拠資料

・資料 8-1 医学部教務委員会内規

８．統轄および管理運営	8.1 統轄

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

「教育運営協議会」において、その他の教育の関係者の意見を反映させている。

改善のための示唆

・より広い範囲の教育の関係者からの意見を委員会組織に反映させることが望まれる。
・委員会組織の決定事項を関係者と適切に共有することが望まれる。

改善状況

毎年、教育運営協議会（資料 8-2）を開催し、幅広い関係者の方々からの意見を頂いている。協議会の内容は教授会や理事会でも共有し、指摘事項に対する対応に関してキャリア支援課等で検討している。また、教務委員会下部組織であるカリキュラム策定委員会、ならびにカリキュラム改善委員会には、学外からの委員を各 2 名配置しており、他大学医学部の状況や病院関係者からの意見を参考にしながら、カリキュラムならびに学修成果の策定・見直しに役立てている（資料 1-8）。

今後の計画

教育運営協議会で議論された内容について、教務委員会を中心とした委員会に共有し、今後の取り組みに反映させ、実施した内容は次回の教育運営協議会へ報告し、その後、フィードバックをいただく。

改善状況を示す根拠資料

・資料 1-8 2024 年度 学生部会議事録
・資料 8-2 第 14 回教育運営協議会 次第・委員名簿・会議資料

８．統轄および管理運営	8.2 教学における執行部

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

教学におけるリーダーシップの評価を使命と学修成果に照合して、定期的に実施することが望まれる。

改善状況

本学では、建学の精神・大学の基本理念、使命・目的をもとに自己点検・評価を毎年実施している（資料 8-3）。評価の基準は「使命・目的等」「学生」「教育課程」「教員・職員」「経営・管理と財務」「内部質保証」の 6 項目とし、薬学部長ならびに医学部長を中心とした自己点検評価委員会（資料 8-4）が実施し、結果を本学 HP に公開している。
また、国家試験合格率や卒業後の東北地域への着任者数を、毎年度、学長主催の大学運営会議に医学部長が報告している（資料 8-5）。

今後の計画

教学におけるリーダーシップ評価については、上記自己点検・評価時に同時に行うこととしているものの、明確な仕組みや体制を構築すべきか検討を行う。

改善状況を示す根拠資料

・資料 8-3 令和 6 年度自己点検評価書
・資料 8-4 自己点検・評価委員会
・資料 8-5 第 70 回大学運営会議（一部抜粋）

８．統轄および管理運営	8.3 教育予算と資源配分

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための示唆

教員の報酬を含む教育資源配分の決定において、医学の発展と社会の健康上の要請をさらに考慮することが望まれる。

改善状況

教員の業績自己申告書で、教育、研究、組織運営、社会貢献、診療の項目において毎年度業績を評価している。
また、教授方法の更なる向上を目指し、令和 6(2024)年度から医学部優秀教員表彰（ベストティーチャー賞・グッドティーチャー賞）を導入した。ベストティーチャー賞の受賞者は、教授方法の講演を行い、優れた教授方法を教員に共有した。
ベストティーチャー賞には、表彰と共に副賞として（8 万円）の研究費を授与している（資料 8-6)。

今後の計画

●適正人員に基づく定員管理
2024（令和 6）年度の人件費総額を今後の人件費上限とするため、法人の各部門（教室・部署等）に応じた適正人員（人数・職位等の構成）の設定を進める。6 月までに案を作成した後、学内調整を進め、2026（令和 8）年度から適用するよう準備を進める。※案が決まり次第、令和 7 年度中に人員の適正化に関する必要な対応を行う（採用計画・昇格等)。

改善状況を示す根拠資料

・資料 8-6 医学部優秀教員表彰要項

８．統轄および管理運営	8.4 事務と運営

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

なし

改善のための助言

事務部門の人員配置について適時に見直し、支援体制をより強化すべきである。

改善状況

毎年度、事務職員全員から個人調査票を人事課に提出している（資料 8-7）。個人調書には、業務成果(活動・取組み等)、組織貢献(部署内の運営・育成等)、能力開発(勤務状況等)の項目について、それぞれの昨年度の実績・課題、これからの目標や計画について記載している。また、同時に課長が個人調査票を基に課員と面談をしている。

学生や教員を効率よく支援できるよう、これらを参考にし、人事配置や課内での業務体制について見直ししている。

今後の計画

●業務の効率化・集約化
事務部門（法人・学部・病院）においては、業務内容・事務分掌の整理と組織統合を検討し実行する。
また、企画課の他、関係部署・DX 推進プロジェクトチーム等が中心となり、業務効率化を行うことで時間外勤務手当の削減を図る。
教育職（医師等）及び医療職の時間外削減に向けた、対応策や支援策を検討する。
●人材育成制度の整備・拡充
事務部門においては、2024（令和 6）年度に人材要件の整備、管理職研修・中堅職員研修を実施した他、昇格試験制度を導入。2025（令和 7）年度には、この他に若手向け研修等を実施し人材育成制度の整備・拡充を図る。
●人事管理制度・表彰制度の制定
人材育成のための目標管理制度等の本格導入について検討をする他、教職員のモチベーション向上及び能力開発に資する新たな表彰制度を新設する。

改善状況を示す根拠資料

・資料 8-7 令和 6 年度「個人調書」作成及び「人事面談」実施について ※部外秘

９．継続的改良	
基本的水準：適合	
特記すべき良い点（特色）	
なし	
改善のための助言	
教育プログラムの構造、内容、学修成果/コンピテンシー、評価を定期的に見直し、より確実に改善すべきである。	
改善状況	
教務委員会の下部組織であるカリキュラム関連委員会（P:策定、D:実施、C:評価、A:改善）のうち、カリキュラム評価委員会の機能を医学部自己点検・評価委員会に移管し、客観的な評価ができる体制を整備した（資料 9-1）。	
今後の計画	
医学部自己点検・評価委員会でカリキュラム評価をした内容に基づき、カリキュラム改善員会が議論を行い、PDCA サイクルをもとにした運営を行う。	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 9-1 令和 7 年度医学部委員会	